

子どもの本

研究会

【私の一冊】

『5%の人々時代を変えていく、とっておきの人間力』

(サンマーク出版) 清水克衛 著

坂口倫章

以前どなたかが記されていたが、「私の一冊」を絞り込むのは難しい。世に数多ある本の中で良書と呼ばれるものは多数溢れており、偏りなく多角的な読書という観点も必要だと思うからである。自我の目覚める少年期には伝記、児童文学、科学雑誌を夢中で愛読していたが、小学校5年時に「三島事件」をTVで目撃することになる。その後、はじめは興味本位から三島文学に触れるようになり、TV画面とは隔絶した感のある絢爛豪華で唯美的、詩的な文体に魅せられはまっていった。しかしながら現実と隔絶したその世界観ゆえか、次第に「疲れ」のようなものも同時に感じるようになり対極ともいえる無頼派、自己破滅型の太宰治にもはまっていき、それらを交互に手に取るようになった(ちなみに三島は本当に太宰を嫌っていたようである)。このスタイルはその後も癖になっていたのだと思う。また同時期、複雑な家庭環境であったのだが、「きけわだつみの声」に接し学徒兵の無念に思いを致せば、幸不幸を軽率に論じることができないことも学んだ気がする。

偏りのない読書へのアプローチは大切であるとは考えるものの、単なる多読で知識ばかり増やしても仕方がない。「現代人は科学によって知識の量は増やしたが、知識の質は劣化させた」とは、五高でも学ばれた昭和の天才、仲小路彰の言であるが、コロナ禍の混沌とした世相の中で、数多ある本の中から良書に出会い些事に左右されない独自の視点を築き自分軸を組み立てていくことが肝要なのではないかと思う。その水先案内人の一つとしてこの本を挙げさせて頂いた。著者は東京下町の辺鄙な場所で本屋を営む変わり者ながら「本のソムリエ」とも称される話題の方である。大衆の意識に左右されない5%の人になれと説く。その為には「上の心」を目指す、「読書は人のため」にするという意識を持つ、「驕らず周りに影響を与えながら下流(目的地)に向って」水のよいうに生きる「」ことを薦めている。「知識」は他者の為に実践してはじめて成功者でなく成幸者になれるということであろう。「吸収した知識を行動して消化しないと心の肥満児になる」という表現もなるほどと思わされた。巻末のソムリエ推薦本も大変興味深い。平易でとても読みやすい読書嫌いにもお奨めの本である。

(医療法人弘倫会 坂口歯科医院 院長)

2021年9月19日(日) 特定非営利活動法人 熊本子どもの本の研究会 発行

<http://www.kodomonohon.org>

E-mail: info@kodomonohon.org

第3回研究会活動検討会

日時 8月22日10時〜12時

場所 オンライン会合（ZOOM）

参加者 7人

参加者7人中3人が初参加だった。

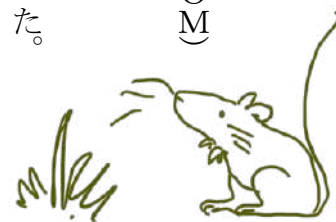
3回目のZOOM会議だったが、初めての方は接続に手間取ることがある。ただ1度設定すると、2回目からはスムーズに接続できるので、まずは参加をきっかけに端末環境の最適化を図っていたことが重要であると感じた。

以下参加者のコメントなど。

○初参加者の自己紹介

・現在熊本在住。外国人を対象にした日本語教師をしている。今の子ども達が本をあまり読んでいないという問題意識から子どもにも本を紹介する活動をしたと思う、友人と熊本市の教育委員会にも相談に行った。研究会のインタビューシップ募集のちらしを見て連絡をとったところ、今日の会合に誘われた。

（一緒に参加された友人の方は学校の司書。後半より参加）。



・兵庫県西宮市在住。システム開発者。20年前に米ロサンゼルスに留学した際にジェトロ（日本貿易振興機構）でインターンをした際の上司が横田理事長。以前から研究会の話は聞いており、今回初めて参加。

○前回検討会・児童書の古典を読みなおす会

第2回研究会活動検討会での議論の中で「児童書の古典を読みなおす会」の開催が提案され、8月1日に「ナルニア国ものがたり」を対象に、オンラインで実施した。参加者は4人であったが、2時間楽しく語り合った。記録は本会報（3頁）に掲載。

○子ども食堂での音読教室

・〈初参加者〉本に親しんでもらうという目的で、「子ども食堂」で音読教室を開催予定（9月11日）。
・研究会では特別支援学校でのお話会などの経験はあるが、子ども食堂での活動経験はなし。
・音読テキストの選択に関しては、びわの木文庫が活用できるのでは。

・研究会スタッフ・関係者がいる時にびわの木文庫で相談することを検討。



○児童の読書

・中学生はライトノベルが主流で、ライトノベルすら読まない子も多い。『都会のトム&ソーヤ』は人気作品の一つ。
・ライトノベル『本好きの下剋上』『薬屋のひとりごと』は結構面白い。

・ライトノベルは10代の頃、結構読んだ。しかし今では記憶に残っていない。大人になっても読みたいという本ではなかった。

・学生時代に『塩狩峠』（三浦綾子）を読んで衝撃を受けた。
・筒井康隆、星新一らのSF的な作品は、本好きになる良い入口になるのでは

・今の中学生は部活、塾などで忙しい。ライトノベルでも本を読みたい気持ちになるのにはよいのかもしれない。

・学生時代、自分が好きな本を紹介する本のプレゼンテーション大会があった。

・最近読んだ『AIに負けない子どもを育てる』（新井紀子）によると、読解力アップには音読したほうが良いとのこと。

・高校生の時、『ふたり』（赤川次郎）を読んでハマってしまった。

・高校生の時に読んで感動したのは『風と共に』



去りぬ』(マーガレット・ミッチェル)。映画も良いが原作がより面白い。『かもめのジョナサン』(リチャード・バック)にも感動した。子どもも良い本だと言っていた。

・子どもの頃に読んで意味が分からなく、今になって読んで理解できた本というのがある。『ライ麦畑でつかまえて』(サリンジャー)、『風の又三郎』(宮沢賢治) など。

・『幸福の王子』(オスカー・ワイルド)を子どもの頃に読んだ時は王子の崇高な人柄に感動したが、大人になって読むと、主人公はつばめなのではないかと見方が変わった。

・最近シェークスピアにはまっている。ただ、子どもの頃読んでも、愛や嫉妬、憎しみ、献身といった普遍的な人間感情や巧みなセリフ回し、絢爛豪華な文章の魅力は分からなかったかもしれない。背伸びして読むのもいいことばかりではないかもしれない。

・難しくして読めなかったというのも一つの経験。いつ読むべきかななどをあまり考える必要はないのでは。

○今後の活動

・9月26日(日)に好きな本を紹介するイベントを開催したい。その際、子ども食堂での活動(9月11日)についても紹介していただきたい。



・10月3日(日)には第2回児童書の古典を読みなおす会『ナルニア国ものがたり』+『モモ』を開催する。
(横田真・上林雅子)

報告

◆児童書の古典を読みなおす会

(課題図書 ナルニア国ものがたり)

日時 8月1日(日) 10時~12時

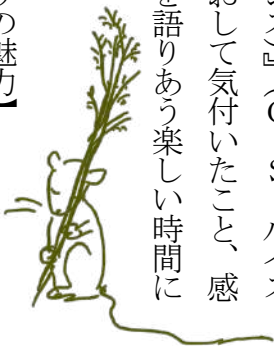
場所 オンライン開催(ZOOM)

参加者 4人

ナルニアシリーズで最初に刊行された『ライオンと魔女(と衣装ダンス)』(C・S・ルイス作)を中心に、読みなおして気付いたこと、感じたこと、考えたことを語りあう楽しい時間になった。

【ナルニア国ものがたりの魅力】

・自分たちと変わらない少年少女達のナルニアでの冒険談だということ。ナルニアで色々な経



験をして時を過ごしたのに、現実世界に戻ったから全く時間が経っていないかというところが、もしかしたら自分にも起こるかもとワクワクさせてくれる。ファンタジー系、SF系の本をよく読むようになった原点。

・衣装ダンスを通してナルニアに入っていくという入り方に引き込まれる。「千と千尋の神隠し」も、普通の女の子が異世界に紛れ込み、色々な苦労をして成長し、元の世界に戻るというもの。ナルニアとお話の構造がよく似ている。

・一度死んだアスラン(ライオン)が復活するどんでん返しは、子どもの頃は特段気にならなかったが、今回読みなおして、イエスの復活がモデルになっていることに気が付いた。このようにさまざまな気付きがあり、大人になっても読む価値を感じられるところが名作たる理由だろう。

【ダイジェスト版について】

・10歳までに読みたい世界の名作シリーズ(ダイジェスト版)と田中明子訳の絵本では、アスランが代わりに罰(石舞台での処刑)を引き受けることとなるエドモンド(次男)の裏切り行為が誰に対するものであったかがきちんと記載



されていない。フルテキストでは、エドマンドの裏切りが魔女に対するものではなく、兄妹姉妹に対するものであることがきちんと説明されている。

また、ダイジェスト版はお話の説明になってしまっており、ハラハラドキドキしない。子どもであっても読むならばフルテキストを読んだほうがよい。

『ハリー・ポッター』シリーズを読むと、『指輪物語』をなぞっていることがよく分かる。古典をベースにしていると作品に奥行きが生まれる。ナルニアのような古典はちゃんと読むべきもの。

・フルテキストは、エドマンドが犯した罪に対する罰が徹底しすぎていると感じた。絵本(田中訳)だと細かいところまで突き詰めることなく、救われる感じがした。

【翻訳、紹介者】

・瀬田貞二訳の動物たちの古めかしい語り口調や「泥足にがえもん」というような固有名詞には、今の自分には抵抗感があった。今の子どもには他の翻訳者(土屋京子、河合祥一郎他)による新訳のほうがよいのでは。



・瀬田訳のお菓子の「プリン」と原語の「ターキッシュデライト」は全く異なる。

・大人が子どもにも自信を持って本を紹介することが重要。子ども達は知らない言葉があっても気にせず読んでいける。自分が好ましいと思っている人から勧められた本であれば、訳が少し古めかしくても子ども達は楽しんで読んでくれる。

・本を直接紹介するような子どもとのコミュニケーションの場をつくることが重要。

【次回】

・ナルニアに加えて『モモ』(ミヒヤエル・エンデ)について語り合いたい。(10月3日に開催予定)。(横田 真)

【報告】

「会いたい」ですね!

8月の2つの講座が中止になりました



「コロナの感染者が増えてきたね」講座の開催は難しいかな…。7月下旬、8月4日の講座

「語りと絵本の持ち寄りパーティー」の担当者である倉岡さん、古上さんと電話やラインでやり取りした。そして都心の感染者数の増加に呼応するかの様に熊本の感染者数も増え、熊本県は「熊本蔓延防止宣言」を出した。そのことも踏まえ講座の中止を決定。その後、8月8日から熊本県に「まん延防止等重点措置」が適用され、同月18日の講座「ナンセンス絵本を味わう」も中止とした。

対面の講座は、昨年度から中止や延期を繰り返している。講座参加申し込み受付の担当をしている私は、中止の連絡も担っている。中止を伝えると、「残念です」とともに「会いたかったです」という言葉が返ってくる。もちろん、申し込みは内容に興味があつてのことだと思いが、そこに「人に会いたい」という気持ちがあることも否めない気がする。

作家のブレイディみかこさんの「会うよろこび」というコラム『JAF Mate』2020年8・9月号)に、京都大学前総長の山極壽一さんの言葉が紹介されていた。要約すると「人間は視覚と聴覚を使って他者と会話すると脳で『つながった』と錯覚するらしいが、人は五感のすべてを使って他者を信頼するようになる生

き物だから、他者の匂い（嗅覚）、一緒に食べる食事の味（味覚）、触れる肌感覚（触覚）、こらしたものが他者との関係を築くうえで重要なのだ。つまり、人間はまだ身体的なつながりのほうを信じているともいえる」というものだ。

今の社会状況ではオンラインの果たす役割は大きい。うまく利用していきたいと思う。でも、人が同じ場に集う中から生まれるものを求めることもあきらめたくない。講座の一つのテーマの下、参加者の温かさを感じるような脱線を含みながら語り合う2時間が再び訪れることを辛抱強く待ちたいと思う。

「語りと絵本の持ち寄りパーティー」が「語りと絵本とお菓子とお茶の持ち寄りパーティー」と名を変えて集える日が来るといいな……。そんなことも夢見ている。

※ホームページでもお知らせしましたが、9月15日に開催予定だった講座「生きる力を、いつ、どのように獲得するのか―課題本『ゆきのよあけ』今村葦子・文、童心社」も中止となりました。

(木村一恵)



企画募集

講座を企画してみませんか！

今年度、対面の講座は、何かやってみたい人たちが集まって、テーマを決め企画しています。

「あの作家さんが好き」「この本が好き」「語りをじっくり聞いてみたい」「お話の小道具を作ってみよう」等々、興味があることを講座という形にしてみませんか。具体的な進め方は経験者がお手伝いします。皆で学ぶことで広がっていく世界を楽しみましょう！

参加者募集

好きな本を紹介する会

日時 9月26日(日) 10時～12時
場所 オンライン会合 (ZOOM)

参加希望の方は左記アドレス宛に9月24日までにご連絡願います。

連絡先アドレス: [zoom\(a\)kodomonohon.org](mailto:zoom(a)kodomonohon.org)

(a)を@に変えてアドレスにして下さい



第3回研究会活動検討会では、子どもの頃読んで感動した本、最近読んで面白かった本などの話で盛り上がりましたが、限られた時間の中では十分に語り合えなかったため、そのための会合を別途開催しようということになりました。日曜の朝、参加者それぞれから本を紹介してもらい、その魅力について語り合いたいと思います。児童書、ライトノベル、現代小説、古典名作などジャンルは問いません。

参加登録の際に、紹介する本の題名、著者名も併せてご連絡願います。

皆様の参加、お待ちしております。

(横田 恵)

参加者募集

児童書の古典を読みなおす会 (第2回)

日時 10月3日(日) 10時～12時
場所 オンライン会合 (ZOOM)

参加希望の方は左記アドレス宛に10月1日までにご連絡願います。

連絡先アドレス: [zoom\(a\)kodomonohon.org](mailto:zoom(a)kodomonohon.org)

(a)を@に変えてアドレスにして下さい



8月1日、ナルニア国ものがたりの『ライオンと魔女』を主たる題材に4人で語り合いました。記録は会報3ページをご参照願います。まだまだ語りつくせないということで、第2回を開催いたします。今回はナルニアに加えてミヒヤエル・エンデの名作『モモ』も対象です。数十年振りに読みなおしてみても感じたことを話し合います。これを機会に初めて読んでみる方も大歓迎です。

(横田 真)



報告
2021年度 理事会

- 日時 7月18日 11時45分〜12時
- 場所 熊本子どもの本の研究会事務所
- 出席者数 7名(理事総数 7名)

□審議

横田真理事が議長となり、以下のとおり審議を進めた。

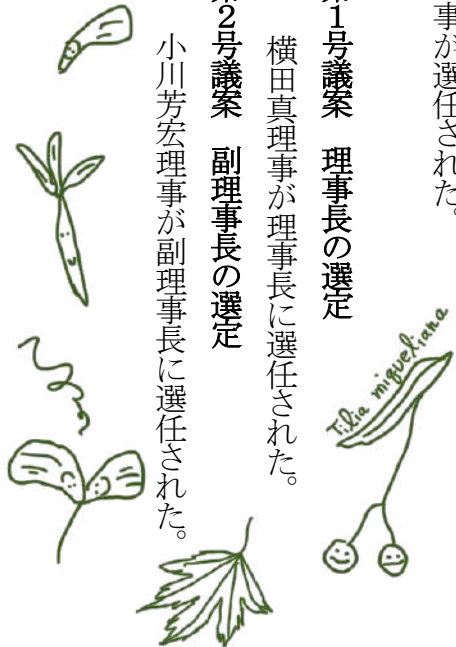
議事録署名には、鈴木福江理事と増田素美子理事が選任された。

第1号議案 理事長の選定

横田真理事が理事長に選任された。

第2号議案 副理事長の選定

小川芳宏理事が副理事長に選任された。



2021年度の会員及びご寄付いただいた方を紹介します(敬称略、五十音順)

(ご参加及びご寄付に感謝いたします)

【正会員】(79名)

- 赤星啓雄、有久賢治、飯森ひろ子、池田恵美
- 池田瑞穂、和泉邦彦、植尾かずこ、植木玲子、梅元計吾、浦上洋子、永口京子、逢坂恵利、岡本章子、岡山明子、小川芳宏、興津暁子、小野小夜子、貝塚直子、香月孝子、金子玲子、金原瑞人、上林雅子、河島一夫、川村博子、菊島紘子、木村一恵、工藤彰子、倉岡寿雅子

黒瀬幸子、黒田真由美、古上美智代、後藤良子、佐伯道子、坂井淳、坂下実千代、坂田文香、坂本道子、佐治映子、島田紀三子、清水親房、鈴木福江、世良喜久子、竹中多鶴子、田原三容子、田村君江、近松恵美子、辻由美、土佐今日子、戸高和子、戸高圭介、中條紀子、中山千春、西村チエ子、花岡亮介、林田理恵子、東元良愷、廣渡しずの、福田浩子、福田稠、藤田美津代、堀祐子、堀畑真紀子、本田小百合、本田ひろみ、増田素美子、松村和子、村上和子、村上輝和、村上ひろみ、森正人、森島伸弘、山城順子、山野美和子、横田恵美、横田幸子、横田真、吉川美加、吉丸良治、米山尚子

【賛助会員(団体)】(2団体)

おもちゃ図書館てんじゅえん、香覚寺

【ご寄付いただいた方々】(8名)

- 金子玲子、金原瑞人、鈴木福江、東元良愷、森正人、横田幸子、横田真、吉永能子





第4回研究会活動検討会開催案内



第3回では新規参加者3名を含め7名で、再び熱のこもった議論をすることができました。議論の中から「好きな本を紹介する会」を新たに立上げようということになり、またその会合の際に、新規参加の方が企画されている子ども食堂での活動についてご紹介いただくことになりました。議論の記録については会報2ページをご参照願います。

第4回検討会を下記のとおり開催いたしますので、皆様のご参加お待ちしております。非会員の方でも事前登録いただければ参加できます。

開催日時：2021年10月10日（日）10：00－12：00

開催形態：オンライン会議（ZOOM）

議事案

- ・前回議論の振り返り
- ・個別活動について（各参加者からのコメント・意見交換）
- ・会報・ホームページ・びわの木文庫の活用について



参加希望の方は下記アドレス宛に10月8日までにご連絡願います。

連絡先アドレス：[zoom\(a\)kodomonohon.org](mailto:zoom(a)kodomonohon.org) ((a)を@に変えてアドレスにしてください)

記載事項：

件名：「第4回研究会活動検討会（10月10日）参加登録」と記載願います。

メール本体：①氏名、②e-mail アドレス、③電話番号（連絡確認用）、
④備考（個別活動の提案、ZOOM 会議参加の事前確認希望など）

会議前日（10月9日）にZOOM 会議開催（URL）のご案内をいたします。

参加登録の際に「事前確認希望」と記載された方には、事前に横田が、ZOOM 会議のセッティングについてご説明させていただきます。お気軽にご連絡下さい。



皆様のご参加お待ちしております。



次回以降の講座のご案内

○本の持ち寄りパーティー

語りたのお話、好きな絵本・児童書などをお持ちください。手ぶらでの参加も大歓迎です。



・日時 10月6日(水) 10時〜12時

・会場 くまもと県民交流館パレオ9階会議室3

○ナンセンス絵本を味わう

・日時 10月20日(水) 10時〜12時

・会場 くまもと県民交流館パレオ9階会議室3

○生きる力を、いつ、どのように獲得するのか

課題本『ゆきのよあけ』今村葦子・文、童心社

・日時 11月17日(水) 10時〜12時

・会場 くまもと県民交流館パレオ9階会議室2

★参加には事前登録が必要です。講座名、

参加者のお名前、連絡先を明記の上、メールか

FAXでお申し込みください。



メール [kouza\(a\)kodomonohor.org](mailto:kouza(a)kodomonohor.org)

(a)を@に変えてアドレスにして下さい

FAX 096-382-5090

※社会状況により開催会場および日程が変更または中止になる場合があります。お越しになる前に必ずホームページでご確認ください。



本はともだち！

『お探し物は図書室まで』(青山美智子：ポプラ社)は、本屋の棚でみつけた時に、題名に惹かれました。物語は東京近郊と設定された羽鳥

区の住民を主人公にした5話のオムニバスです。

家庭や仕事場での悩みを抱えた主人公達は、た

またま訪れたコミュニティハウスの図書室で、

大きな存在感のある女性司書から紹介依頼した

本以外にそれぞれ1冊の本を奨められ、付録と

して羊毛フェルトをもらいます。ちなみにそれ

ぞれのプラス1冊は、『ぐりとぐら』、『英国王立

園芸協会とたのしむ 植物のふしぎ』、『月のと

びら』、『ビジュアル 進化の記録 ダーウィン

たちの見た世界』、『げんげと蛙』



やる気がなさそうな上司や部下に囲まれ日々

淡々と仕事をこなしている35歳の家具メーカー

一経理担当者は、10歳若い彼女に誘われてコミ

ュニティハウスで開催されるイベントに参加し

たことをきっかけに、アンティークショップを

やりたいという子どもの頃からの夢を思い出し

ます。彼は、いろいろな人の話を聞き、夢を膨

らませながらも、現在の仕事との両立できるの

かと悩むのですが、その彼の背中を押したのは、『

植物のふしぎ』を読む中で湧いてきたインス

ピレーションと彼女の言葉。そのような、心が温まる話が連なっています。

主人公達は、図書室に行き、司書と会話したことを契機に、新しい情報・視点に触れ、これまでの日常とは異なる人と会話するようになり、

その中で、自分の新しい居場所を見つけしていきます。人々のほのぼのとした物語にきっかけを

与えてくれるのが本であり、図書室で本を紹介してくれる人であるということがうれしく、研究会活動をさらに頑張ろうという気持ちにさせてくれました。

母(幸子)は8月末に体調を崩しましたが、

9月4日に妹と2人で訪問した際には、点滴な

どはしつとも落ち着いた状況でした。会員の菊

島紘子さんからお送りいただいた「ぼほんたのお話」の映像をiPadで見せたら、じつと

聞き入っていました。(横田 真)

編集 池田・金子・上林・横田

《イラスト》安田

特定非営利活動法人

熊本子どもの本の研究会 発行

T861-8029

熊本市東区 西原1丁目15の24

FAX 096(382)5090

